

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校 学校関係者評価委員会
自己点検・自己評価 評価表

【2024年5月18日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		保れている…3 適切…2 改善が必要…1			保れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	教育理念・目的・育成人材像は、明文化・文章化されており、会議や研修等においては、これらを用いながら行うことで理念等の普及・徹底を実現している。また、マーケティングとイノベーションにより、社会の新たな人材ニーズと見出し、育成人材像として明確化して新学科の創設やカリキュラム変更を行っている。理念等の実現のため、目標、事業計画などは、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会において、広く意見を聞き、適宜見直しを行っている。	1、実学教育 スペシャリストが求められる時代に即し、即戦力となる知識技術(テクニカルスキル)を教授する。プロ意識を持った『即戦力として仕事ができる人材』を、各業界との連携のもと「各々の業界に直結した専門学校として」養成する。 2、人間教育 開校以来『今日も笑顔で挨拶を』を標語として掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーションを大切にしている。学生は技術・スキルだけではなく、コミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル(ヒューマンスキル)や逞しさを身につける。同時に、自立した社会人・プロの職業人としての身構え・気構え・心構えを養成する。 3、国際教育 より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う。日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるようにする。	3	全国で約2700校ある専門学校の中で、産学連携・情報公開・第三者による評価を受け職業実践専門課程を実践している学校は約1000校のみです。保護者にとっても生徒を送り出す高校にとっても、この努力と文部科学省認定校としての継続は高く評価できることです。また私学にとっても重要な建学の理念を、いかに具現化するかが生命線だと思いますが、建学の理念の①実学教育 ②人間教育 ③国際教育 を確実に行之い、社会のニーズや業界の動きに対しても速やかに対応する教育がなされています。
	1-1-2 育成人材像は業界等の人材ニーズ像に適合しているか。育成に関連業界の協力を得ているか。	3	教育課程編成委員会や業界講師面談、業界訪問等により、業界が求める人材像を明確にするとともに、教育課程・授業計画等策定に活かされている。特に教育課程については、教育課程編成委員会の意見を反映させている。現場のニーズに合わせて、実践的な策定を行っている。また、各学科における法定実習等について、業界協力を得ながら、全ての学生が滞りなく実施することが出来ている。	産学連携教育を軸として、常に業界とのコミュニケーションを図り、業界から遊離せず産学協同での教育を心がけている。ほとんどの学科が職業実践専門課程の認定を受けており、業界との連携をより密接にした教育プログラムの実践を行っている。	3	貴校の学生は高度な技術を要するので即戦力となる人材を育成し、学生ではなくプロの一員としていつでも現場に立てるといふ身構えは大事だと思います。
	1-1-3.4 理念の達成、業界ニーズに適合する将来構想を抱いたうえでの教育活動に取り組んでいるか。	3	産学連携教育を重点に置き、学校と業界と協力して人材育成に取り組んでいる。学校のイノベーションは5か年で計画しており、事業計画に記すのと同時に教職員研修、講師会議等でも将来構想について周知している。		3	良い講師がいれば学生はどんどん伸びるので、学生の 講師評価でより自身を成長させ、学生と講師により、より良い学校になる 様にして頂ければ良いと思います。それが出来ているから これほど大きなグループ の学校でいられるのだと思います。
2 学校運営	2-2-1 運営方針は定められ、教職員に周知・浸透されているか	3	学校事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決済を受け、承認を得ている。また、学校の事業計画は毎年3月の初旬に研修を行い、全教職員へ周知徹底している。	2022年度重点課題 ①「東京医業看護でしかできない」学びを創造する。 ②10職種12学科を持つ「医療、バイオ系総合専門学校のブランド化 ③コンプライアンスを強化し、適切な運営を実現する。 事業計画は事務局長が作成し、運営会議で承認された後、全職員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。	3	学校運営は中期長期の事業計画・運営方針を最高意思決定機関である法人理事会そして評議委員会で決定承認されて、その後は事業の戦略会議をへて法人運営会議・学校運営会議におろされ、さらに学校全大会議から学科・部署の会議を経てグループ各委員会に伝えられる組織が出来上がっています。
	2-3-1 事業計画は理念等を達成できるように定められているか	3	学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。また、各部署ごとの事業計画を教職員が自立的に計画・決定し全員で共有している。その上で、職場運営が実行されている。	事業計画の構成 ①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針(中期的に組織として目指していく方針) ③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針) ④定量目標(受験者、教育成果(DO防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等)) ⑤定性目標(人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標) ⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画) ⑦組織図(単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩附帯事業計画 ⑪職員の業績評価システム ⑫意思決定システム ⑬収支予算書(5ヵ年計画) 学校運営をマネジメントシステムの準備(計画)と実行として捉え、マネジメントスキル、知識、そしてリーダーとしての研修を重視している。マネージャーは組織運営者であることを前提としている。	3	組織運営や意思決定の機能と効率性は万全の体制と言えますから学校運営に關しても高い評価が出来ます。法人の意思が学校に伝わり全教職員が、同じ方向に向かって進むことが学校教育の基礎だと思います。その基礎を基にして各組織分掌が的確に機能しています。
	2-4-1.2 理事会は適切に開催されているか。また、運営組織や意思決定機能は体系化され、効率的なものになっているか	3	理事会は年4回実施され各理事会毎に組織全体に議案の確認をしている。また、議事録は関係部署に公開されている。運営のための組織図は事業計画に含まれており、3月初旬の研修で共有している。運営組織は、実行計画の最適化の観点から見直されている。その全体像は、事業計画書の組織図に示されている。運営のチェックは、各会議で行い、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。		3	同時に教職員の人事や賃金の処遇についても、的確な制度で運用されていますので、これが学校の活力に繋がっているものと評価できます。
	2-5-1 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3	採用にあたっては、学園本部が中心となり、募集や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。賃金の決定は目標管理制度を基準としている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務も過程を評価できるようプロセス評価も導入している。目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかの視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。全職員の目標の妥当性について会議を行い承認のもと設定と評価を決定している。また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。	3	少子化の中で、他の学校と比べて 特徴のあるオンリーワンの学校のチャレンジはすばらしいと思います。その体制の中で安定した経営を経継続している所はすばらしいと思います 医療事務について、最近では4年制大学の希望者が増加しており、現場では、教育に苦慮しています。やはり、専門学校で教えてもらった知識により即戦力となれるため、もっと医療事務の生徒が増える事を期待しています。
	2-6-1 意思決定システムは確立されており明確になっているか。	3	意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視し会議毎に参加者は選抜され、その中で各リーダーに権限は委譲されている。	【会議とその位置づけ】 1. 法人理事会・評議員会 最高決議機関 2. 拡大運営協議会 運営方針の周知徹底 3. 戦略会議 運営方針の問題を発見・対策立て会議 4. 運営会議 学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議 5. 学校全体会議 決定事項の周知 7. 学校学科会議・部署会議 部署の問題解決会議 8. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・広告倫理委員会・個人情報保護委員会・学科別教育研究委員会・災害対策委員会・カウンセリング委員 会・オリエンテーション委員会) 9. プロジェクト会議	3	
	2-7-1 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	専門学校基幹業務システム(IBM社製 i 5(アイファイブ)上に構築)により管理。システムは、①学籍簿管理 ②時間割管理 ③成績・出席管理 ④学費管理 ⑤入学希望者及び入学者管理 ⑥各種証明書管理 ⑦求人企業管理 ⑧就職管理 ⑨卒業生管理 ⑩学校会計システム ⑪人事・給与システム ⑫ファームバンクシステム ⑬研修旅行管理システム ⑭寮管理システム ⑮健康管理システム 等により構築されている。	個別ごとのセクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されていると考えている。それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによるものである。また、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多くすることが可能になった。 特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にブレがないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防止、就職支援にもつながっている。	3	

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校 学校関係者評価委員会

自己点検・自己評価 評価表

【2024年5月18日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
3 教育活動	3-8-1.2 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか。	3	毎年、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会での、意見集約、評価などをふまえ、事業計画において教育課程方針を定めている。また職業教育方針については、キャリアロードマップを作成して活用している。教育指導要領、学生便覧において、学科ごとの到達レベルである「養成目的、教育目標、学年、学期目標」を学生に明示している。また資格取得指導、支援体制も学生に明示して、教育活動を実践している。	本校における養成目的は卒業後3年の到達イメージ、教育目標は卒業時に身につけている知識・技術を指している。	3	CPI教育システム・MMPプログラムの体系は他にはない素晴らしい教育実践プランです。 成績評価・単位の認定は学生総てが持っているシラバスにも細かく明記され、学生による授業アンケートも授業内容や評価に反映されて、さらなる改善に繋がっていることは高い評価と言えます。
	3-9-1.2 教育の目標・目的に沿った教育課程を編成し外部の意見も反映しているか。	3	教育課程の編成については、教育課程編成委員会や業界訪問などにおいて、現状のニーズや入学する学生の状況を鑑みながら、養成目的、教育目標の見直しを毎年実施している。また、授業科目構成や科目配分、シラバス内容などについては、教育改革プロジェクトを配置し、学科担当者、教務部長など多数の目で作成、点検、実施を行っている。カリキュラム、授業形態、時間数などの詳細については、学生便覧を学生に配布し、カリキュラム理解の指導に時間を多く費やしている。シラバス、コマシラバスは、学科担当者が定期的に配布状況の調査を行っている。授業方略については、様々な研修、会議を通じて各教職員が研鑽している。教育課程の編成時には、学校関係者評価委員会や教育課程編成員会での意見や評価、卒業生が勤める業界の方のヒヤリング、講師などからヒヤリングを実施して、業界動向などの分析シートを作成してから、カリキュラム編成作業に入る形になっている。また在校生より、毎学期、授業アンケートを実施し、この結果についても教育課程に反映している。	業界の変化や多様化する学生に対応して、より精度の高い、幅広いカリキュラム構築を行っている。学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、現場実習時の訪問などにおいて、積極的に情報を集め、業界との連携をしながら教育課程を作成している。シラバス公開、GPAの導入等など、高等教育の修学支援に向けた情報公開と教育の質の担保に取り組んでいる。	3	目標が明確なら 学生も目指しやすいので、とても大事な事だと思います。 学校と企業の連携はより個々の学生に合った対応が必要。メンタル面のケアなど企業側でできる事の提案を求めたい。 引き続き、業界との連携を密にし、積極的な情報収集をもとに、学生指導に活用してもらいたい。 情勢の激しい変化 に、柔軟な対応と体制の整備を今後も尽力してもらいたい。
	3-9-3 キャリア教育を行なうために教育内容等の工夫をしているか。	3	キャリア教育ロードマップを作成してキャリア教育の指導方向性、方略を徹底している。また職員は学園内にキャリア教育に関する指導・支援について、研修を受講している。現場実習時の訪問や就職関連行事、離職率調査などの際にヒヤリングを実施している。	キャリア教育の一環で、異学年交流や積極的に卒業生を授業等に招くようにして、1、3、5年後の姿をイメージさせるようにしている。	3	卒業3年後の到達イメージを目標とすることは、すばらしい考えだと思います。達成度についてもあるとよいと思います。
	3-9-4 授業評価を実施し、授業改善に活用しているか。	3	授業評価については、毎学期毎に全学生から、授業アンケートを実施して、講師へのフィードバックをして授業方略の向上に活用している。また講師と学科長・教務部長との面談を実施して授業改善を実施している	【授業アンケート】 アンケート結果を基に、講師面談等でフィードバックし授業改善に努めている。 【講師会議】 年2回実施している非常勤講師向けの会議(研修)で、評価の高い講師の授業の取り組みなど水平展開できるように実施している。	3	全学生から授業 アンケートを取るのは 非常に良いと思います。授業が終わってそれで終わりではなく、その授業内容 がどうだったのか学生の声を聞くことで、講師も勉強を続けお互いが高めあえると思います。
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確にしているか。	3	単位履修、成績評価については、学生便覧内の学則施行細則にて、全学生に配布、説明を実施している。また教務会議、進級判定会議などにおいて、成績評価、単位履修についての共通認識を確認している。	毎年、学生便覧掲載内容、学則施行細則の見直しを行っており、単位認定、成績評価については入学前、入学直後のオリエンテーションや初年次教育において、詳細な説明を実施している。また成績評価、単位認定の基準に未到達が予測される学生への、補習・特別授業、カウンセリングも早期に実施し、全ての学生が卒業できる体制作りを実施している。	3	
	3-10-2 学生の受賞状況、研究業績等を把握しているか。	3	学生の受賞や研究実績は随時把握をしており、賞や研究の内容によっては卒業時に表彰する形式を取っている	JESC奨励賞・努力賞・審査員特別賞 卒業研究の中から特に優秀な作品を滋慶教育科学研究所によって選出され卒業時に表彰される。	3	
	3-11-1.2 目標とする資格は教育課程上、計画に位置付け、取得の指導体制はあるか。	3	取得目標資格の内容や資格対策授業については入学時に学生便覧にて詳細を説明して、資格取得の動機付け教育を行っている。資格合格プログラムは毎年見直しを実施。不合格者、卒後指導体制についても、ひとり一人の卒業生の状況に合わせた資格合格プログラムを策定して万全の体制をとっている。	【滋慶学園 国家試験対策センター】 大阪本部に設置。グループ校の全学科の国家試験結果の分析、傾向の把握、模擬試験運営等を担う。 【JESC国家資格研修】 滋慶教育科学研究所が年に1回行う研修で、学園グループの国家試験合格率の優秀な学校が表彰され、他校の対策の取り組みの共有を図っている。	3	
	3-12-1.2.3 資格・要件を備えた教員を確保し、教員の資質向上の取組みを行なっているか。	3	学校長、事務局長、教務部長が中心となり、毎年度の事業計画に合わせた教員採用計画を立案、実施している。その際には、様々な団体や業界関係とのパイプを活用して採用を行い、採用規定に準じた採用となっている。また、教授力を高めるための、研修、勉強会も1年に数回、校内、校外において実施している。各授業の授業アンケートを実施して教授力の把握を行っている。また、教員の資質向上を目的とした研修は校内や外部団体の研修会など数多く実施・参加している。担任研修、カウンセリング研修、新入職研修など、経験や部署に対応したプログラムになっている。各学科、年間に2回～4回の講師会議を実施し、連携・協力体制の構築、教科間すり合わせなどを実施している。専任教員は毎年校務分掌、担当、役割を明確にし、運用にあたっている。また、授業アンケートのフィードバックの実施やオープン授業の実施など組織的に授業改善に取り組んでいる。	教員、資格、研修については制度、内容も充実した体制をとっている。校務分掌による、常勤にスムーズな学校運用はもちろん、非常勤教員との情報共有や教授力の向上については、様々な取り組みを行っている。 【職員研修】 担任研修／カウンセリング研修／新入職研修／新入職フォローアップ研修／トレーナー研修／OJT研修／国家試験研修／FD研修／マネジメント研修／コンプライアンス研修／滋慶教育科学学会など。	3	

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校 学校関係者評価委員会
自己点検・自己評価 評価表

【2024年5月18日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
4 教育成果	4-13-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	3	以下の7つの項目で月末数字を作成。 問題がある場合の対策を立て、実行している。 ①卒業年次在籍者数 ②就職希望者数 ③求人数 ④内定者数 ⑤専門就職者数 ⑥内定シミュレーション ⑦学生就職活動状況表 就職対策講座、就職模擬面接会、就職模擬試験、学内就職説明会などを学科単位で実施。(オンラインを活用)	就職者率(就職決定者/就職希望者)100%を目標にしているが、2023年度は年度内98%と昨年より4%UPとなった。また、学内説明会、模擬面接会等を対面型で各学科にて実施するとともに、Microsoft 365を活用し、就職情報の提供、就職活動状況の確認、試験対策面談等を効率的に活用している。一方、採用基準の厳格化により、国家資格系学科の学生の就職試験合格率が低下傾向にある。一人ひとりに合わせた就職支援の在り方を再検討する必要がある。 キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置。 【キャリアセンターの目的】 ①入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう。入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ②在校生に対しての就職支援在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施。臨床実習等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援	3	学生に就職におけるスキルアップ指導や筆記試験対策、臨床実習をサポートするなどして就職希望者の内定率を100%に高め維持する努力は高く評価できます。 ただ就職して数年後の離職率が高いことは、就職した環境に適応できなかった内面の問題と、希望していなかった企業への就職(時には企業内の職種でも)問題もあるのかも知れません。就職率よりも本人が希望した職種・企業への就職指導強化をさらに期待いたします。
	4-14-1 資格取得率の向上が図られているか	2	事業計画において、単年度及び5年後までの資格取得率目標を設定している。 また、開校以来、各学科のカリキュラムは、専門資格100%取得を重視して構築されている。 資格取得者数及び合格率に関し、各学科において自校の結果や年度推移の把握、データ化を実践するとともに、国家試験対策センターとの連携を図り、他校の結果や全国平均合格率の推移のデータ化を行っている。	全ての学科において、全学生が必要な資格を取得することを目標としているが、この点に関しては未達成である。しかしながら、カリキュラムの見直しはもとより、国家試験対策センターとの連携による問題傾向の分析など、日々の学生の理解度向上のため教育プログラムの構築に努めている。	2	サポートが充実していても、学生が感じる重圧に負けてしまう ほどの大変な仕事に就くという事で早い段階で見切りをつけるのは大事なので、卒業後1年目の離職は仕方が無いと思います。 専門学校での資格取得は強みとなるため、合格率と取得できなかった場合のサポートは大切だと考えます。
	4-15-1 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	毎年就労状況アンケートを実施。キャリアセンターを中心に卒業生を訪問している。その際に、卒業生の状況についての把握に努めている。また各科の実習先訪問時にも卒業生の様子は確認している。	卒業後1年目の勤務状況調査を毎年実施している。令和元年度卒業生5.8%、令和2年度卒業生5.0%、令和3年度卒業生4.0%、と減少傾向。離職の要因として、①仕事上のストレス(55%)、②プレッシャーが強い(34%)が多く挙げられる。コミュニケーション能力やセルフマネジメント能力を身につけられる対策が必要である。 滋慶学園のキャリアセンターではグループ校のキャリアセンタースタッフが合同で離職防止や卒業生支援のための対策を考えるための研修を実施し、キャリアセンタースタッフのレベルアップを図っている。	3	技能、知識、その他 事項について、就職後の卒業生や就職先へのアンケート調査を実施し、教育プログラムの見直しに活用してみるのも良い かもしれない。
5 学生支援	5-16-1 就職に関する体制は整備されているか	3	職種ごとに就職活動時期のピークが異なる為、その時期に合わせ就職行事を設定し、就職支援を実施している。 また、学校独自の就職活動マニュアル、自己分析シートを作成し、全学生に配布し就職活動で活用できるように支援している。 ・就職支援用のビデオオンデマンドを作成している。 ・月1就職会議実施。 (学生状況、内定シミュレーションの共有)口 ・就職対策講座、就職模擬面接会、就職模擬試験、学内就職説明会などを学科単位で実施。(オンラインを活用) ・Microsoft365の活用した情報発信・共有を図っている。	東京医薬看護専門学校独自の就職活動ツールとして、就職に必要なすべての基礎知識を集約した就職活動マニュアルを毎年更新し学生に配布している。自己分析を行うためのツールも継続的に活用している。	3	学生の就職活動はキャリアセンターが中心となり計画的に行われています。また健康管理についても慶生会クリニックとの連携で他校にはない健康管理がなされています。 いま高校や大学・専門学校では、コロナ感染の影響で体調が悪ければ休むべきだとの認識とリモート授業で単位は何とかなるであろうとの思い。さらには人間関係が構築できない学生の急増で、退学者の増加が懸念材料です。相談窓口やカウンセリングの重要性が高まっていますので、さらなる対応を期待します。 生活支援では学生寮の充実と、学費等の経済的な相談窓口の整備は学生ばかりか保護者にとっても有難い体制の一つです。さらなる拡充に期待をしています。
	5-17-1 退学率低減の為の取組みを行なっているか。	2	年度の初めに、学科ごとの目標を立てる。その際、前年度の退学者の傾向を分析し、対策を立てたうえで、目標数字を決定。 また、年度の終わりには、進級・卒業判定会議資料として進級者名簿・数と退学者名簿・数、退学時期、退学要因分類・詳細、その結果を受けた学科総括と次年度対策案を書類として作成している。 学生の心理面サポートとして、担任面談やJTSC(カウンセラー)との連携を行っている。 学習面に関し、各学科基礎学力向上や資格試験対策補習の体制を行っている。	ひとり一人の学生に合わせた支援体制が構築されつつあるが、入学生の変化に柔軟に対応できる、より柔軟な支援・サポート体制が求められる。 また課題である、学生の問題の多重化、複雑化は顕著になってきているため、有効な対策の実行や対応に時間を要している。 基礎学力不足の学生向けの補習や、学生ひとり一人の相談にのれるよう定期的なカウンセリングなどに力を注いでいる。また、学生の認知特性から、指導・対応方法に工夫を必要としている。	2	経済的な理由でない限り、退学は早い段階での見極めによるものかも知れず、学生の間に気持ちが負けてしまう様では、将来的に離職につながってしまうので、精神面 でも、学生のうちに強くなってもらえる様にしてほしいと思います。
	5-18-1.2 留学生支援も含め、学生相談に関する体制を整備しているか。	3	「滋慶トータルサポートセンター(JTSC)」をグループ校全体利用の学生相談室とし、学生または担任からの希望により専門カウンセラーによるカウンセリングを受ける事が出来る。また、サポートアンケートを毎年実施し精神面に不安のある学生、学園で運営している「慶生会クリニック」にて心理面が要因となる体調不良が認められた際、JTSCを動める体制を作っている。面談の記録としてサポートフレームシートを活用しJTSCと担任による双方の支援を共有している。このJTSC利用に関しては入学説明会から案内をし、ポスター掲示や案内カードの配布等で学生に向け広く紹介をしている。卒業生の相談は卒業学科の職員やキャリアセンターが相談対応をしている。 学校生活における留学生の支援、指導は担任、学生サービスセンター、キャリアセンター、学園に国際センターが連携を取りながら行っている。卒業後の支援の窓口は学生サービスセンターが行い、状況把握をしている。指導記録は日本人学生と同様に管理をしている。	全教職員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESCカウンセラー資格」を取得しカウンセリング技術の統一を図っている。心理学・カウンセリング基礎知識の習得のより学生相談室との連携がスムーズになっている。	3	現学生については コロナ禍での中高生生活を送った生徒だと思われるため、ある意味特 殊な状況下であったことを踏まえて密なフォローアップ体制と就職支援、また就職後の指導をお願いしたい。 専門カウンセラーのサポートは今後大事だと考えますので、すばらしいと思います。

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校 学校関係者評価委員会

自己点検・自己評価 評価表

【2024年5月18日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
5 学 生 支 援	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	特待生制度・取得資格等による納入金免除制度を実施している。 学費奨学金窓口を設け、相談体制を整えており、災害発生時・家計急変時には、日本学生支援機構・東京都育英資金の手続きを行っている。 日本学生支援機構奨学金利用者と働きながら学ぶ学費支援制度の利用者には分割納付の許可をしている。 厚生労働省の専門実践教育訓練については、指定要件を満たす学科は指定を受けており、公表している。 このような制度に関しては募集要項やHPにも記載しており、分納希望者とは個別面談を実施して詳細説明を行っている。	様々な側面からサポートを必要とする学生が多く、学校もそれに充分応えられるよう学園およびサポート企業のスケールメリットを生かした体制を作っている。その中でも特に学費サポートのニーズは高く、学園内専門の教育を受けたフィナンシャルアドバイザーを常駐させている。	3	経済面での負担もサポート体制が確立されており、高い目標に向かって進む学生が安心して学べる環境があると思います。卒業をする事で自信につながる学校だと思います。 子供が貴校への入学を希望したら、喜ぶし、子供の意識の高さに 感心させられる学校だと思います。 経済的な支援に対してもフィナンシャルアドバイザー常駐は必要と考えます。
	5-19-2、3 学生の健康管理や、学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。	3	学校保健法に基づき4月に全ての学生、7月に教職員に対して定期健康診断を実施している。結果は学校医も保管をしており、有所見者、再検査者の対応を行っている。 保健室はあるが対応が難しい状況の際には学校医が速やかに対応する体制が取れており、定期的に会議で、時期毎の学生の健康管理対策についてアドバイスを受けている。 また、多くの学生が病院・施設等に実習に行くため、各種抗体検査と予防接種を実施している。 学校医と定期的に会議を行い時期毎の学生の健康管理対策についてアドバイスをもらっている。本校は医療系の学校ということもあり近隣の医療機関との交流も深い。 「かさい学生寮本部」を学園本部で運営している。寮生の状況については担任と寮長とで連携を取り、学生生活全般の支援を行っている。学生寮の紹介については学校が行っているため利用状況は明確になっている。	安全衛生委員会を月1回開催している。 寮本部から生活アドバイザーが各寮を巡回したり、電話相談に応じるなど24時間体制でサポートを行っている。	3	
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	オープンキャンパス等の行事を中心に活動を行う学生ブレスという組織に約130名在籍している。 葛西エリアの姉妹校合同サークルに、学生が参加し活動している。	2023年より葛西エリア姉妹校合同サークルの告知を開始している	2	
	5-20-1 保護者と適切に連携しているか。	3	対面型、オンライン配信、オンデマンド配信等、各科で保護者会を開催し、入学後の教育、就職、学費その他手続きについて実施している。 また、希望者の個人面談を行っている。 三者面談では、オンラインも活用し実施。保護者の連絡先は把握しており緊急連絡を入れる場合もある。	入学から資格取得、就職、卒業に至るまで保護者の協力は重要と考えており、入学時から保護者連携の体制を確立している。各保護者会には多くの保護者の参加があり教育に関しての関心が高く個別相談希望者が多い。	3	
	5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	2	学科により、卒業時に卒後教育プログラムの内容とスケジュールを明示し積極的な参加を促し、卒業後にも学習や研究ができる場の提供をしている。また、資格不合格者には、卒業後も合格まで補習等を無償でサポートしている。	今後卒業後の再教育プログラムについては内容のブラッシュアップを図っていく。	3	卒業後も第2新卒として就職などの相談にも対応できるようにしていきたい。 卒業生のサポートは無償での対応がよいと思います。
	5-21-3 社会人経験者のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3	学則にて入学前の履修の単位認定について定めている。修業年限を配慮した大卒を入学要件とした学科を設置している。長期履修制度を導入している学科もある。本校は社会人経験者の入学割合も高く、既卒者向けの体制は確立されている。	2024年度入学生より、東京都離職者等再就職訓練を化粧品総合学科にて受託する。	3	
6 教 育 環 境	6-22-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	国家資格系の養成施設として認可を受けており法令遵守が大前提となり、施設、設備、機器等に関して問題なく整備されている。休憩場所としては教室を開放している。毎日2回の清掃が入っているが、学生にも掃除当番があり設備は清潔に保たれている。学生サービスセンターにて施設・設備の日々の点検を行っているが管理会社に定期点検を委託している。卒業生の施設使用に関しては積極的に受入れをしており、勉強会等を自主的に行っている卒業生グループもある。改装等は5か年の事業計画を作成し計画的に行っている。	設備等に問題はない。実習室に設置されている機器は、臨床実習および就職で医療現場に行った際に学生が戸惑う事の無いように実際に多く使用されているものを取り入れている。ICT教育設備を充実させて、新しい授業の形にもチャレンジしていく。	3	学校の教育施設は専門学校設置基準そして各種資格認定団体の認定校設置基準さらに消防法や建築基準・バリアフリー条例などを満たしており十分な教育環境が整備されています。 設備が充実していれば、より勉強に力が入ると思うのでとても大事だと思います。
6	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	学外実習は、法定実習はもとより他実習についても明確に教育課程上に位置づけられている。実習実施に際し、要綱やマニュアル、評価基準を明確にし、受け入れ先医療機関や企業等と綿密な打合せの上、実施している。 海外研修は、国際教育という理念に基づく主要な教育実践の場と言える。海外研修は、学園の考えでもある「国際教育」を実践する場であり、海外研修の渡航先に関し、各学科の目指す業界に対して一番の先進国であり、そこの活動を十分に体験出来ることを前提に選定している。	各学科における法定実習は法令で定められている実習時間数を担保している。 学外実習や海外研修を行うことは、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	3	海外研修で沢山の知識を習得してほしいと思います。 実習は国内・国外とも力を入れる必要があります。

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校 学校関係者評価委員会
自己点検・自己評価 評価表

【2024年5月18日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
教育環境	6-24-1.2 防災に対する体制と学内における安全管理体制が整備されているか。	3	防災マニュアルを整備し、災害の種類による対応と防災教育と訓練を行っている。管理会社も訓練に参加し、写真等の記録も残している。防災施設設備に関する点検は法令に基づき管理会社が実施をして報告を受けている。また、全ての教室に、火災・津波の際の避難場所の掲示をしている。葛西消防署の依頼で火災予防運動週間のタペストリーを地域に向けて見えるように校舎に掲示している。防犯体制については、IDカードや学生証をかざさないと入れないようにしている。外部はインターホンで対応している。	以前の防災訓練は避難のシミュレーション(シナリオ)を作成していたが、全職員が災害対応や避難誘導が可能なように各校舎・実習室に簡易マニュアルを掲示し避難指示の放送のみの訓練を実施している。 学園として災害対策本部があり、非常時には情報、連絡、支援などスケールメリットを活用している。	3	全学生に対して万が一の大規模災害に備えて、三日分の生活必需品の備蓄をするなど安全面での配慮も充分にされており安心できる学校の環境だと評価します。 あらゆる災害に直面 しても対応出来る様避難シミュレーションをいかしてほしい。 発生が予想される大地震に対しての取り組み・訓練は大切です。
	7-25-1 高等学校に対し教育活動等の情報提供を行なっているか。	3	在校生・卒業生の状況は高校訪問・進学説明会にて逐一伝えている。また進路ガイダンス等にも注力し、積極的に高等学校で直接高校生に進路情報を伝えられるよう努力している。	学生募集活動は、学内に個人情報保護委員会を組織し、プライバシーの保護に配慮しながら、学則を基に、その年の入学案内・募集要項の通り、適正に行われていると考えている 【CPA個人情報研修】 全職員が個人情報の取り扱いに関する研修を受講している。	3	学生の募集は困難を極める時代に入っています。18歳人口の減少で大学は全入時代となりつつあり、総ての面で専門学校は大学との競合となっています。2年制の学校が3年制の学校に変わり、3年制の学校が4年制の学校と変わって行く時代です。学びの時間も、学ぶ費用も専門学校と大学の垣根や差は無くなってきています。そんな中で専門学校が選ばれるためには何をしたらいいのかが問われる時代です。高校も千葉県では公立私立で6割以上の学校が定員を確保できない状況です。都市部の公立高校が定員を獲得できなくなったのが今年の募集でした。私学は公立には出来ない教育を…掲げました。専門学校も大学では学べない教育を…掲げ実践しつつ時代です。そのなかで募集の柱がオープンキャンパスと高校の進路ガイダンスでは太刀打ちできません。進路ガイダンスは業者が予め選定した大学・専門学校を高校に呼び集めますから、いつも呼ばれるとは限らないのです。高校や中学校の文化祭・授業へ卒業生が中心となり出前授業を行ったりする。各種競技会・大会や催し物の会場でアピールする計画を期待します。
7 学 生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行なっているか。	3	本校は東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。 志願者からの問い合わせに関して、あいまいな事は入学事務局担当者から改めて連絡するようにしており、不確実な事が外部に伝わらないように徹底している。 個人情報の管理については学科毎にひとり一人の受験生の情報をファイリングし、厳重に保管している。 体験入学・オープンキャンパスなどは毎週定期的に実施しており、時期ごとに志願者の趣向にあわせた内容で実施している。		3	学生の募集は困難を極める時代に入っています。18歳人口の減少で大学は全入時代となりつつあり、総ての面で専門学校は大学との競合となっています。2年制の学校が3年制の学校に変わり、3年制の学校が4年制の学校と変わって行く時代です。学びの時間も、学ぶ費用も専門学校と大学の垣根や差は無くなってきています。そんな中で専門学校が選ばれるためには何をしたらいいのかが問われる時代です。高校も千葉県では公立私立で6割以上の学校が定員を確保できない状況です。都市部の公立高校が定員を獲得できなくなったのが今年の募集でした。私学は公立には出来ない教育を…掲げました。専門学校も大学では学べない教育を…掲げ実践しつつ時代です。そのなかで募集の柱がオープンキャンパスと高校の進路ガイダンスでは太刀打ちできません。進路ガイダンスは業者が予め選定した大学・専門学校を高校に呼び集めますから、いつも呼ばれるとは限らないのです。高校や中学校の文化祭・授業へ卒業生が中心となり出前授業を行ったりする。各種競技会・大会や催し物の会場でアピールする計画を期待します。
	7-26-1.2 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行い、選考に関する実績の把握ができているか。	3	入学選考に関しては、基準を募集要項に明示し、決められた日程に実施している。 可否の判定体制に関しては学校長・事務局長・教務部長・広報センター長・全学科長により構成される「選考会議」にて可否を確定する。面接・書類内容・選考試験が実施されている場合、その結果をふまえ総合的に判断している。 合格者及び辞退者等の現況を示すデータは入試選考毎に蓄積し、適切に管理が出来る。 また蓄積したデータをもとに外的要因に合わせた翌年以降の入試方法等の改善にも取り組んでいる。	将来の希望分野への適性を見極めるため、面接の比重を多くしている。 結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。	3	学生の募集は困難を極める時代に入っています。18歳人口の減少で大学は全入時代となりつつあり、総ての面で専門学校は大学との競合となっています。2年制の学校が3年制の学校に変わり、3年制の学校が4年制の学校と変わって行く時代です。学びの時間も、学ぶ費用も専門学校と大学の垣根や差は無くなってきています。そんな中で専門学校が選ばれるためには何をしたらいいのかが問われる時代です。高校も千葉県では公立私立で6割以上の学校が定員を確保できない状況です。都市部の公立高校が定員を獲得できなくなったのが今年の募集でした。私学は公立には出来ない教育を…掲げました。専門学校も大学では学べない教育を…掲げ実践しつつ時代です。そのなかで募集の柱がオープンキャンパスと高校の進路ガイダンスでは太刀打ちできません。進路ガイダンスは業者が予め選定した大学・専門学校を高校に呼び集めますから、いつも呼ばれるとは限らないのです。高校や中学校の文化祭・授業へ卒業生が中心となり出前授業を行ったりする。各種競技会・大会や催し物の会場でアピールする計画を期待します。
	7-27-1.2 学納金は妥当なものとなっており、入学辞退者に対し適正な取扱いを行なっているか。	3	常に学納金を下げているよう、予算管理を行い無駄な支出が無いか確認している。在学中の徴収金額の総額を募集要項に記載し、事前に明示の無い徴収は行わない。 東京都専修学校各種学校協会のルールを基準とし、募集要項等に通知の趣旨に基づき募集要項に返還の基準を明確に記載している。入学辞退の申し出があった際には個別にも詳細の説明を行っている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。 また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたったのアドバイスを実施している。	3	高校等に学校案内の配布をしたた良いのではないかと思います。 もともと高い意志をもって入学を希望されると思うが、入ってからこんな大変なのかと気持ちが悪くならない様、在校生の苦労話を聞ける場も必要と思います。 高等学校の先生方 からの理解が学生 の背中を押す意味でも重要ではないた ろうか。 学生の確保は重要で、その対策は時代のニーズに合わせて常に変更が必要と考えます。
8 財 務	8-28-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	毎年事業計画書を作成し、5か年の収支予算を立てている。 その中で入学者数、在校生数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。 また新学科構想、設備について計画し、支出予算を作成している。 借入金等長期資金の計画については、都道府県の基準の範囲内で計画・実行している。 これらは理事会・評議員会にて承認、報告がなされている。 財務については学園本部によるチェックがあり適正な予算管理がされている。	キャッシュフローを重視した運営をしている。 また、単年度の予算を綿密に作成している。	3	滋慶学園グループ全体で81校の規模。さらに全学生数は約4万人に誇る学園です。また経営内容については人件費の割合が40%とのことから財務体制は盤石といえる基盤を備えています。 その会計を公認会計士が監査し、さらに学園の監事による監査も実施されHPでも公開するなど環境が整備されています。
	8-29-1.2 教育目標との整合性を図り単年度予算、中期計画を策定し適正に執行管理を行なっているか。	3	5か年の収支予算を作成し、毎年更新される。将来の学生数予測に基づき、収入予算が作成される。また、新学科構想、設備支出等を勘案し支出予算となる。 収支予算については学校現場のみならず学園本部も協議しながら作成し、見直しする。そのため予算の本部と現場との認識のずれはない。 作成された予算は、理事会・評議員会で承認を受ける。 必要に応じ、年次途中で修正予算を組む	予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているので妥当な方法と考えている。 5年を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものとする。 一部の予算項目については、年度開始前に各学科の年間予算を打合せの上決定し、各部署長も執行状況を管理している。	3	教育目標を定め、中長期の予算配分をしながら事業計画がされていますので、よりの確な予算の流れがあることは高く評価されるべきです。
	8-30-1 財務について会計監査が適正に行われているか	3	学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会において税務面での報告をしている。 監査での指導事項は改善に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による税務面での監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。	3	

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校 学校関係者評価委員会

自己点検・自己評価 評価表

【2024年5月18日実施】

2023年度自己点検自己評価(2023年4月1日～2024年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
	8-31-1 財務情報公開の体制整備はできているか	3	私立学校法に基づく財務情報公開体制が整備されている。 財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備している。 財務情報はホームページに掲載して公開している。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、情報公開に対処している。	3	
9 法令等の遵守	9-32-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法人本部内にコンプライアンス、労務人事、リスクマネジメント等を管理および指導する人員を配置しており、学校担当者と連携を取っている。 また、学園主催のコンプライアンス研修に事務局長・部長・担当者等が積極的に参加し、コンプライアンスを全職員で取り組むものとして、全職員に説明会を行っている。	法令順守に対する意識や設置基準等の認識については、研修や全体説明等を通じて職員全体で年々向上しており、申請等の業務では各学科と担当者が相互に確認しながら実施している。 2023年度は全教職員に対してパワーハラスメント研修を実施した。	3	学校の設置基準・その他の法令を厳守して学校運営がなされています。 教職員や学生に対してはハラスメント防止のマニュアルを策定し、さらにコンプライアンス委員会を設置して学校運営が適正かどうかをチェックする体制が整備されていることは評価すべきだと思います。 また自己評価を学校評価委員会で、カリキュラムの編成は教育課程編成委員会で評価を行うなど、しっかりした実施体制が確立しています。
	9-33-1 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	教職員に対して、就業規則等にも個人情報保護を明記するとともに、研修を実施している。また、毎年ITリテラシーテストを全ての教職員・学生に対して実施し、急激に普及し問題となっているSNSに関する取り組みも行い学生教育にも生かしている。 個人データの管理取扱い、サイトの運用に関しては、関連企業の協力を得て適正に管理をしている。	外部機構の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年ライセンスを更新している。 また、個人情報保護に関しては全職員が認定CPAアカデミック資格を取得し毎年更新研修を受講している。	3	
	9-34-1.2 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努め、その結果を公表しているか。	3	自己点検は平成15年より行っており、平成18年12月に委員会を立ち上げ、私立専門学校等学校評価検討委員会の基準を元に、今日まで毎年実施しており、平成19年度以降の事業計画にも反映し、全学で取り組んでいる。	自己点検・自己評価を実施する中で見えてきた改善項目は学校責任者を中心に関係部署リーダーにて対策を検討している。評価結果は学校関係者評価委員会にて更に評価を得た後に、HP上に公開をしている。	3	
	9-34-3.4 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価結果を公表しているか。	3	学校関係者評価委員会を実施して、選任した評価委員とともに、学校評価に取り組んでいる。指摘のあった項目については、次の委員会にて報告を行っている。評価結果については報告書にまとめ、ホームページにて情報公開をしている		3	
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行なっているか。	3	学校にとって教育は商品であり、内容の説明は重要である。教育情報はホームページで公表をし、学校をより深く理解してもらえるよう取り組みを行っている。	職業実践専門課程の認定以降、情報量が増加しており、ホームページの情報公開ページを閲覧しやすくなるよう変更している。	3	
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	本校では学校の存在価値として4つの信頼を掲げている。その中に地域からの信頼を掲げ、社会貢献、地域貢献に積極的に取り組み、地域の方々からの信頼を得られる事を行動の指針としている。 言語聴覚士科では、ことばの教室、読み聞かせ教室、歯科衛生士科では歯磨き指導教室などの地域住民に向けた活動を実施している。	【地域貢献活動の取り組み例】 ・言語聴覚士科 就学前の言葉の発達に問題を抱える幼児を対象として、言葉の発達の支援を実践している。 ・歯科衛生士科 江戸川区歯科医師会と共同し小学校の歯磨き指導を行なっている。 地域の3歳以上の児童を対象にデンタルフェス(歯磨き指導・歯科衛生士職業体験等)を行っている。 ・救急救命士科 救命救急講習やAED講習等を行っている。また、在校生が消防団に入団し、地域貢献活動を行っている。	3	救急救命士科の学生はボランティア活動の場は命に関わることなので多くはないと思われますが、言語聴覚士そして歯科衛生士の学生の場合だと幼稚園・保育園から小学校や中学校まで歯磨きの習慣・歯の衛生の指導の場は多いと思われます。また言語聴覚に障害のある児童生徒の数も多く、行政機関と連携してお喋りや読書・音楽を通しての貢献はさらに可能だと考えますので実行のほど宜しくお願いいたします。
	10-36-2 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	3	本校は建学の理念として、実学、人間、国際教育を掲げている。海外研修はこの理念に基づく主要な教育実践の場になっている。各学科の特長、特色に合わせて、海外研修先を選定し、1年次を中心に約1週間のプログラムで、実施している。 教育体制は、必ず渡航前の実習前教育と渡航後の実習後教育を実施して、動機付け→海外研修→振り返り→共有のプログラムを行い、海外での学習体験をしっかりと知識となるように取り組んでいる。 ホームページ内に、留学生向けの多言語での情報提供を強化している。	学外実習や海外研修を行うことは、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	3	11月に執り行う 東葛西小学校の消防、防災訓練では大変お世話になっています。 ボランティア活動については、生徒にとって貴重な体験、経験となると思われるため、是非継続的な参加をしてもらいたい。 コロナが5類となり、今後は地域貢献が重要と考えます。積極的にできるとよいと思います。
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し活動支援を行なっているか。	2	救急救命士科は、病院の災害訓練や消防団活動などのボランティア実績があるが、学校全体としてはボランティア活動は活発とは言えない。	学生の職業観・キャリアの形成のためにボランティア活動の参加を推奨していく。	2	